

ボジョレー・ヌーヴォー解禁！ワインにちなんだ本

毎年11月の第3木曜日は、ボジョレー・ヌーヴォーの解禁日です。ボジョレー・ヌーヴォーとは、フランスのボジョレー地区でその年に収穫した葡萄から作られる新酒のことで、フレッシュで渋みが少ないのが特徴のワインです。今回はワインにちなんだ本を紹介します。

1冊目は、石神秀幸/著『最強のワイン学』です。

数あるお酒の中でも敬遠されがちなワイン。この本では、「赤ワインと白ワインって何が違うの？」というワインに関する根本的な疑問から、知っているワイン通を気取れるようなウンチクまで。ビギナーのための知識が分かりやすく解説されています。また、様々な料理やチーズと相性の良いワインの紹介や、そのまま使える飲んだ後の感想例文など、読めばつい試してみたいくなるような情報も盛りだくさん。ソムリエである著者が、くだけた表現で解説をしてくれているので、気負わず楽しくワインについて学ぶことができます。

2冊目は、寺地はるな/著『月のぶどう』です。

天瀬歩は、「出来のいい」双子の姉・光実にコンプレックスを抱きながら生きてきました。どんな仕事も長続きしない歩ですが、ワイナリーを営む母の死をきっかけに光実と二人で家業を引き継ぐことを決心します。ワインに対して特別な思い入れがない歩ですが、葡萄の栽培から醸造まで、悪戦苦闘しながらもワイン造りに携わっていきます。打たれ弱いものの自分なりの方法で奮励する歩と、しっかり者であるが故に時折独りよがりになってしまう頑固な光実。二人はそれぞれ悩み、お互いに支え合いながらやがて二人だけの“夢”を見つけます。双子の成長や二人を見守る人々の思いに、穏やかに心が満たされていく物語です。

3冊目は、藤城清治/影絵, H.C. アンデルセン/原作『ぶどう酒びんのふしぎな旅』です。

この絵本の主人公はぶどう酒びんです。上等なぶどう酒を入れるためのびんとして生まれたぶどう酒びんですが、思いもよらない数奇な運命を辿ることになります。結婚を誓い合う若い恋人たちを見守ったり、中に手紙を詰められて海を漂ったり。暗い屋根裏部屋に閉じ込められたかと思えば、気球に乗って空を飛んだり…。不意に訪れる喜びや悲しみに一喜一憂するぶどう酒びんの姿は、ままならない人生に翻弄される人間の姿と重なります。郷愁的な物語の世界観を、影絵の巨匠・藤城清治が幻想的な影絵で表現しています。うっとりするようなぶどう酒の色彩も印象的です。移ろいやすい人生を象徴するかのような光と影の物語です。

秋の夜長, 読書でワインを味わってみるのはいかがですか? 図書館にはこの他にも沢山の本があります。読書の秋をぜひ図書館でお過ごしください。